

会 議 録 (要約)

会 議 名	管理者・副管理者会議（第1回 建設候補地選定会議）
開 催 日 時	平成26年11月14日（金） 17時00分～18時00分
開 催 場 所	印西地区環境整備事業組合 3階 会議室
出 席 者	板倉管理者、伊澤副管理者、岡田副管理者 【事務局】 杉山事務局長、山本庶務課長、大須賀工場長、鳥羽主幹、土佐主幹、 浅倉主査

次 第

1. 開会
2. 挨拶
3. 候補地の記述評価
4. 建設候補地選定の進め方について
5. 議題
 - (1) 次期中間処理施設整備事業スケジュール
 - (2) アクセス道路・地区外水路の整備計画
6. その他
7. 閉会

第1回建設候補地選定会議の要旨

1. 開会

山本庶務課長

会議開催にあたり下記事項について説明し、管理者・副管理者へ了解を得る。

- ①建設候補地の選定に関して、関係人の利害が絡む協議が出てくることから、傍聴人の入室を認めないこと。
- ②会議録公開の際には、個人の情報等を削除するなど修正を加え公表すること。

2. 挨拶

板倉管理者

用地検討委員会の答申及び管理者・副管理者による各候補地の現地踏査を踏まえ、それぞれの特性や課題等を整理しながら、副管理者との協議をもって、組合の基本的な考え方をまとめ、建設候補地を決定していく。

3. 候補地の記述評価

大須賀工場長

「候補地の記述評価表」を基に、各候補地の特出しすべき点及び周辺住民意見交換会において寄せられた普遍的な意見について説明。

岩戸地区：候補地の周辺に組合が管理する最終処分場が立地していることから、事業効率で優位な点があるが、他にも民間の廃棄物中間処理施設関係が立地していることから、廃棄物処理施設の偏在化に拍車がかかること。

また、候補地周辺に隣接する幹線道路がないため、アクセス道路の整備が必須となること。

滝地区：候補地の至近距離40メートル内に民家があること。

また、幹線道路を隔てて、学習林として位置づけられた山林があること。

武西地区：教育施設や福祉施設が近傍に在るほか、千葉ニュータウン地区の戸建て住宅造成が始まっており、他の候補地と比べ最も生活環境への影響が大きいと評価されたこと。

また、候補地面積の約85パーセントが埋蔵文化財包蔵地となっていること。

吉田地区：候補地に隣接する幹線道路がないことから、アクセス道路の整備が必須となること。

また、候補地の畑全体で、面積では約65パーセントが埋蔵文化財包蔵地となっていること。

現在地：現在も稼働中のため、施設運営の状況は整っているものの、近傍には商業施設や医療施設など人の集客する施設が多数存在していること。

周辺住民意見交換会についての普遍的な意見：一般的に迷惑施設と言われる多くの施設が、印西市内に偏在していることへの不公平間、不動産価格の低下、健康被害及び農作物への風評被害等の影響。

また、ごみ収集車の往来が増えることによる排ガスや事故等を懸念。

なお、現在地以外の共通意見として、既に建替え用地を保有している現在地に整備しないことへの疑問、もしくは、その他の候補地で豊かな自然環境を破壊して欲しくないといった多くの意見があった。

板倉管理者

候補地周辺の住民、町内会等の状況について、詳しく説明を求める。

大須賀工場長

候補地周辺の住民、町内会等の状況を周辺住民意見交換会等の意見も踏まえ説明。

岩戸地区：周辺町内会である柏木台の賛同が高く、その他の町内会では反対の趣旨の意見が多かった印象を受けた。

滝地区：周辺町内会である滝野自治会の連合会から反対を趣旨とする請願書が、署名2,690人分を添え、用地検討委員会のほか、関係機関へ提出された。

武西地区：候補地及び候補地周辺町内会においても、反対の趣旨の意見が多かった印象を受けた。

吉田地区:吉田区では、自治会としての事業の受入れに関する同意書が提出されており、円滑な事業推進が大きく期待できると思われているが、周辺町内会として反対の趣旨の意見が多かった印象を受けた。

現在地:周辺住民から反対の趣旨の請願書が署名727名、要望書という形で、署名13人分添えられた書類が提出された。

また、周辺住民意見交換会においては、参加者の多くは反対の意見であったが、参加数が非常に少ないことから、反対が全てを反映しているかどうかという判断については、難しいものと感じとれた。ただし、合意形成ということでは、非常に厳しい状況であると考えられる。

板倉管理者

候補地ごとに、クリアしなければならない事項等があるが、「事業誘致」に関し、同意書が提出されている候補地があるのは、大変有り難いことである。

副管理者への意見確認。

伊澤副管理者・岡田副管理者

特になし。

山本庶務課長

「候補地の記述評価」については、資料のとおりとすることを、管理者・副管理者へ確認した。

4. 建設候補地選定の進め方について

大須賀工場長

建設候補地選定の進め方の確認、協議事項として7項目を挙げ説明。

第1回会議:2項目の確認、協議事項。

項目1 次期中間処理施設の整備事業のスケジュールについて、候補地ごとに事業スケジュール、延伸リスクが存在するため確認を行う。

項目2 アクセス道路・地区外の水路の整備計画について、最終答申の記述評価でも指摘があった、既存の幹線道路に接していない岩戸地区及び吉田地区について、新たなアクセス道路の整備が必須となっていること。

また、現在地以外は、全ての候補地において、防災調整池の整備が必要であると考えられることから、地区外水路整備についても、事業の実現性に関し基本的な考え方を整理すること。

第2回会議:第1回会議の事業実現性のリスク等の確認、現地踏査で把握した情報の他、資料記載の事項等を考察し、総合的観点から1箇所の建設候補地を決める。

第3回会議:4つの項目についての協議。

項目1 協定書を締結する関係町内会組織の決定。

建設候補地を決定した後、事業化にあたり基本協定書及び整備協定書を締結する関係町内会組織を決定する。

基本協定書では事業を推進する、基本的合意の証となるものであり、できる限り早い段階での締結を予定。

また、整備基本協定書については、排ガス等自主規制値及び地域振興事業の合意であり、施設整備基本計画策定の後に締結を予定。

項目 2 地域振興事業の基本的な考え方の整理。

候補地周辺の住民の最も大きな関心ごとであり、地域活性化への寄与が大きく期待される廃熱利用計画、防災機能整備、雇用創出を含む地域振興策などの事業展開や検討の進め方に関する基本的な考え方を整理。

項目 3 現施設の基幹的設備改良事業との調整。

次期中間処理施設整備事業と現施設の基幹的整備改良事業、いわゆる延命化事業について、それぞれ循環型社会形成推進交付金を充当しての整備を考えると、交付要件を満たすよう整備スケジュールを調整する必要がある。

項目 4 その他として、地域振興事業を含む次期中間処理施設整備事業に対する関係市町の負担割合について協議の他、来月 21 日に建設候補地選定に関する印西地区全体を対象とした説明会及び建設候補地周辺住民に対しての説明会の確認。

岡田副管理者

第 1 回会議の項目 2、アクセス道路整備について、印西市における幹線道路計画も視野に入れながら、印西市との調整を図るということで理解してよいか。

大須賀工場長

既にヒアリング等を実施し、現在の状況も把握している。

今後も、次期施設整備と市幹線道路計画の調整を図りつつ進めて参ります。

岡田副管理者

候補地選定にあたり、それぞれクリアしなければならない問題はあがるが、一番はアクセス道路である。

管理者に印西市との調整をしっかりと進めてもらいたい。

伊澤副管理者

同じ意見です。

大須賀工場長

事務レベルの協議としても、一日でも早く完成できるよう印西市への働きかけを行う。

また、管理者においても担当課へ確認をしていただいていると伺っている。

板倉管理者

出来る限り努力をしていきたい。

副管理者への意見確認。

伊澤副管理者・岡田副管理者

特になし。

山本庶務課長

「候補地選定の進め方」については、資料のとおり進めることを、管理者・副管理者へ確認した。

5. 議題

(1) 次期中間処理施設整備事業スケジュール

大須賀工場長

◆次期中間処理施設整備事業スケジュール（概略予定）表を基に全体の流れを説明。

項目 1 合意形成 ①基本協定書

建設候補地決定後、関係町内会組織との締結を予定。

項目 6 施設整備基本計画

基本協定締結後、施設整備基本計画の検討を進めていく。

本検討にあたり、住民参加型の検討委員会を設置し、徹底した情報公開、透明性及び公平性の確保に努める。

項目 1 合意形成 ②整備協定書

施設整備基本計画が策定された際には、事業計画の全容が明らかになることから関係町内会組織と締結を予定。

項目 7 施設整備基本設計に着手

項目 8 環境影響評価に着手

項目 16 清掃工場建設工事

工事契約締結⇒実施設計⇒試運転等

項目 17 稼働開始

◆次期中間処理施設整備事業スケジュールの延伸リスクについて、リスク要因の一覧表により説明。

N o 1 合意形成

関係町内会組織の合意形成は最大の延伸リスク要因であり、全国的な一般事例では、5年以上を費やすケースも珍しくない。

N o 4 用地買収

現在、土地所有者全員の同意は得ているが、買収時期までに相続等が生じた場合、交渉が難航する可能性がある。

N o 8 猛禽類の生態調査

通常、環境影響評価の現地調査は12ヶ月で終了するが、現在地以外の候補地では、オオタカ等の生態調査を求められる可能性が高く、千葉県より生態調査実施の指導があった場合には、6ヶ月延伸して18ヶ月の調査となる。
※猛禽類の生態調査の結果次第では、猛禽類の繁殖期に施工しないことなどの配慮を求められる可能性もあることから更なる延伸リスクが出てくると推測される。

N o 9 埋蔵文化財調査

環境影響評価の手続き後に、調査せざるを得ないと判断した場合、最大で約2年のスケジュール延伸が見込まれる。

N o 14 アクセス道路の整備、N o 15 地区外水路の整備については、現時点で整備するルートが未定であり、買収地権者の同意を得ていないことからスケジュール延伸リスクは非常に高いものとする。

板倉管理者

稼働開始までのスケジュールの項目1 合意形成 ①基本協定書 ②整備協定書の締結について、詳しく説明を求める。

大須賀工場長

基本協定書については、建設候補地で事業を推進していく上での、まさに基本的な合意の証となるものである。

整備協定書については、排ガスの自主規制値や地域振興事業等の合意であり、施設整備基本計画の内容等を網羅したうえで、最終的に締結する協定である。

岡田副管理者

延伸リスクについて、用地検討委員会の中では、こういった部分について検討した項目はあったのか。

大須賀工場長

基本的には、全てについて把握した上での協議事項となっている。

今後、合意形成を除く延伸リスクについては、関係機関との協議の中で、該当リスクが排除されることも考えられる。

また、最終的にリスクの大きいものについては、地元や周辺町内会等との合意形成が一番大きなものになると判断し、用地検討委員会において、そのリスクを考慮したうえで合意形成が一番整っているのが「吉田地区」と評価した。

伊澤副管理者

第3回選定会議の協議項目6にある、現施設の基幹的設備改良事業との調整において基幹的設備改良事業の竣工後10年以上後に次期施設が稼働開始する計画とすることが交付要件と書いてあるが、これは、セットで考えるべきではないのか。

大須賀工場長

10年以上の稼働というのは、あくまで交付要件である。

第3回選定会議までには、次期施設との兼ね合いも考慮しつつ、いわゆる延命化工事のパターンを複数作成し、協議資料とすることを考えている。

伊澤副管理者

市町の財政負担を加味し、延命化と次期施設の稼働開始の整合性が取れるようなスケジュールを組んでいかなければならない。

板倉管理者

いろいろな意見をいただいたが、もう1点、用地検討委員会の段階から住民参加に重きを置き進めてきているが、今後、事業を推進していくにあたり、住民参加について、

どのように考えているのか、事業スケジュールの項目6にある基本計画の検討委員会について、詳しく説明を求める。

大須賀工場長

施設整備基本計画検討委員会・地域振興事業基本計画検討委員会について説明。

両委員会とも、学識経験者、公募による印西市・白井市・栄町からの住民委員、建設候補地を決定した周辺住民で構成を考えている。

◆施設整備基本計画検討委員会

次期中間処理施設の整備に関するものであり、処理方式、処理能力、施設規模等を検討していく。用地検討委員会でも議論が出たが、煙突の高さなどについても検討する。

◆地域振興事業基本計画検討委員会

清掃工場を中心とし、地域にどのような振興事業が考えられるのか、一体的に共存して行くために、こういった活性化を図る意味での事業があるのかということについて検討する。

岡田副管理者

委員会で計画のみ作成されても、関係市町の財政状況を考慮しながら検討していただかないと管理者・副管理者で受け入れられない部分もある。

大須賀工場長

まず、建設候補地については、第2回の会議で選定を考えている。

第2回で選定する理由については、協定書を締結する町内会、地域振興事業の考え方など、全ての候補地において検討するのではなく、一箇所に絞り込んでから具体的なものを特化し協議していただくためと考えた。

岡田副管理者

最終答申の点数だけをみれば、「吉田地区」に決まるということになるのであろうが、アクセス道路の問題等リスクきちんとしなければならない。

仮に、「吉田地区」が高得点で決まったとしても、アクセス道路ができなければ、搬入路も建設も無いわけである。

きちんとアクセス道路の整備計画の中で担保を取っておかなければならない。

確かに、検討委員会の最終答申については、管理者が言うように重きを置く、しかし、予算を支出する側としてみれば、リスクをきちんと回避する策を取らない限りはできないと考える。

大須賀工場長

本日は、この問題についても協議していただきたい。

事務局としても、計画通り幹線道路が完成し、そこに取付されることが一番であると考えている。

ただ、現道としては泉カントリーにアクセスされている市道がある。例えば、その部分の拡幅など、幹線道路計画が進まない場合には、他の案も視野に入れ決定していければと考えている。

岡田副管理者

建替え時の搬入路は間に合ったとしても、ごみ車両の通行ができないでは済まされない。

大須賀工場長

事務局としても、幹線道路のウェイトは非常に重要な問題であると認識している。印西市関係課との調整を図っていかねばならないと考えている。

岡田副管理者

第2回会議で用地が決まれば、事実上確定となる。

管理者・印西市長として次期施設整備が進んでいく前に、都市計画道路であるこの計画を進めていただきたい。

板倉管理者

わかりました。

伊澤副管理者

アクセス道路の整備計画があること、また、現地は確認したが、具体的な整備計画については確認ができていない。

印西市が計画している道路については、印西市から具体的な計画が提案されないと判断はできない。

また、泉カントリーの道路は市道なのか。

大須賀工場長

印西市道です。

伊澤副管理者

両方の道路についても、岡田副管理者と同じ心配を持っている。

アクセス道路については、きちんとしたものが示されなければかなり厳しい。

施設はできたが、アクセス道路が無いということでは全く意味が無い。

また、検討委員会について、地域振興は理解できたが、施設整備では煙突の高さ決めると言っていたが、これは技術的なことであり、例えば、施設の配置や事務所の位置なら検討できると思うが、専門的なことを決めるのであればメンバー構成を決めてもらわなければ、一般市民を入れられる検討委員会なのか。

この2点について説明を求める。

大須賀工場長

上記2点についての説明。

◆印西市計画幹線道路について、担当課とのヒアリング結果について

今後、測量と現地調査を実施予定、それらを踏まえ地盤改良等必要なものが出てくるかどうかも含め最終的な完成年度を示していく。

これらを踏まえ、組合の次期施設の稼働と照らし合せ、工事の段階で若干の差異が出てくる場所については、調整が必要になってくると考えている。

◆施設整備基本計画検討委員会について

整備基本計画を基に環境影響評価が行われ、それらを踏まえ施設の整備概要についても検討委員会のなかで決めていく必要が出てくる。

整備検討委員会では、専門的知識を持つ学識経験者、公募による印西市・白井市・栄町からの住民委員、建設候補地を決定した周辺住民で構成を考えている。

また、煙突の高さについては、法的なものとして60メートル未満でも可能ということであるが、全国的な事例のなかで、法的な規制はクリアしていても排ガスの拡散等を考慮して、地元からの要望により100メートルの煙突を造ったという事例もある。

このようなことも考慮し、周辺住民も委員に加えていくことを考えている。

板倉管理者

「次期中間処理施設の稼働スケジュールについて」は、その都度、状況により変更することとなると思うが、現時点では、事務局（案）のとおりでよろしいか。

伊澤副管理者・岡田副管理者

賛成する。

(2) アクセス道路・地区外水路の整備計画

大須賀工場長

資料6 ページ・7 ページによりアクセス道路・地区外水路整備が及ぼす、スケジュール延伸リスクについて説明。

◆アクセス道路

5つの候補地の中で、新たなアクセス道路の整備が必要となるのは「岩戸地区」及び「吉田地区」となる。

現在、想定される最短ルートとして、「岩戸地区」は、県道64号「白井・印西線」から候補地まで、「吉田地区」は、印西市の計画幹線道路「松崎・吉田線」から候補地までである。

「吉田地区」の印西市計画幹線道路「松崎・吉田線」については、担当課とヒアリングをし、進捗状況を把握していく。

アクセス道路整備については、1点目、現時点で整備ルートが未定である。

2点目、現時点で買収地権者の同意を得ていない。3点目、事業用地の分筆買収が想定され、買収残地も含めた境界確定が必須となる。4点目、本事業用地は環境影響評価の対象地となり、評価手続き後の着工となる。

◆地区外水路整備

現在地を除き、全ての候補地において防災調整池の整備が必要となってくることが考えられる。

今後、関係機関を含め、既存の水路施設を利用できるのか、新たに水路を整備していく必要があるのかといった協議を進めていく必要がある。

また、施設整備基本計画の中で、例として浸透枳の設置で調整池が必要無くなるのが可能であるのかというようなことも含め協議がでてくると思われる。

地区外水路整備の必要性について、資料等の情報収集も行い、示していきたいと考えている。

板倉管理者

アクセス道路は、用地買収が絡むことからスケジュールを含め慎重に精査する必要があると思われる。岩戸地区は近くに幹線道路があるが、吉田地区は市の計画幹線道路がカギとなるという認識でよいか。

大須賀工場長

吉田地区は、この幹線道路というものが、非常に大きなネックになってくるものと思われる。

用地検討委員会においても、吉田地区に関しての評価は、計画幹線道路に取り付け道路をつければ大丈夫であろうという期待が非常に大きいというのが事実である。

先ほどの、副管理者からの意見のとおり、幹線道路の計画が遅れていくことにより、次期施設の事業が延伸するというリスクが高くなることについて、大変な懸念があるとのことであったが、事務局としても、幹線道路ができることで、その後の稼働に関する収集運搬車の効率性なども含めると、非常に幹線道路の意義というものが大きくなることから、原道の拡幅等、そういったものも一つの視野に入れて検討頂きたいと考えている。

伊澤副管理者

スケジュール延伸リスクで、環境影響評価や埋蔵文化財などは法的な問題であり、これは時間が経てば解決できる。

その部分と、道路を造るという延伸リスクは、また、別の話ではないかと考える。道路を整備する場合、私の経験では、少なくとも立ち会いをやるだけで非常に時間を要し、そこから用地買収をする。

印西市の計画幹線道路をきちんと示してもらえれば私も納得できるが、現時点では心配な面もある。

岡田副管理者

下水・水道はどうなのか。

大須賀工場長

吉田地区ということで説明をした場合、近くに松崎工業団地があり、そこまで、上下水が来ており接続可能となっている。

また、逆方向の岩戸方面から下った場所に西部公園があり、そこまで水道も来ていると伺っている。

今回の会議では、インフラ整備の内容についても資料を提示していきたい。

板倉管理者

両副管理者が心配されている市計画幹線道路については、合併前から取り組むこととなっており、私自身、一生懸命頑張って計画を進めていきたい。

副管理者への意見確認。

伊澤副管理者・岡田副管理者

特になし。

6. その他

山本庶務課長

第2回建設候補地選定会議の日程については、平成26年11月25日の火曜日
17時からの開催とし、協議事項としては、「建設候補地の選定」とする。

7. 閉会

板倉管理者

それでは、本日の議題は終了とする。

ご苦労さまでした。